

城山北公園線 第 2 回みちづくりとまちづくりワークショップ を開催しました。

1 月 16 日（日）午後、松江商工会議所大集会室で、「第 2 回みちづくりとまちづくりワークショップ」を開催しました。第 1 回ワークショップでは、様々な視点から、広い範囲にわたって意見や要望などが出されました。今回のワークショップでは、今後の「まちなみづくり」について意見交換を行いました。

参加者の皆さんからは、具体的なまちなみのデザインについての提案とともに、人口減少が続いている中心市街地で、これ以上居住者やお店を減らさないための工夫や、そのための検討組織づくりなどについてもたくさんの意見や要望が出されました。

●日時…平成 17 年 1 月 16 日（日）

午後 1:30 ~ 4:30

●場所…松江商工会議所大集会室

●参加者…まちづくりを考える会、松江観光協会、松江商工会議所、通勤利用者、福祉関係者、学生など

●主催…松江市



プログラム

13:00 受付

13:30 はじめに

■主催者あいさつ

■第 1 回ワークショップの報告

■本日のプログラムの紹介

■中心市街地の概況

■まちなみ参考例の紹介

14:10 休憩

14:20 STEP1/ まちなみの変化について考えよう！

15:00 STEP2/ 今後のまちなみについて考えよう！

15:55 休憩

16:00 STEP3/ グループ発表

16:25 まとめと主催者あいさつ

16:30 閉会

中心市街地の概況・まちなみ参考例の紹介 — 意見交換の基礎資料として行いました。

■中心市街地の概況についての説明

○中心市街地の現状（統計調査より）

- ・総合的な暮らし易さの評価
- ・各公民館区における人口の増減
- ・低未利用地の増大状況

○殿町地区における中心市街地活性化対策

（中心市街地活性化基本計画など）

- ・中心市街地活性化の必要性やその理由について
- ・歴史資料館構想や再開発事業について

○市民が望むまちのかたち（アンケート調査より）

- ・松江市の将来像
- ・現在のまちに対するイメージ
- ・期待するまちの将来像

■まちなみ参考例の紹介

- ・敷地利用法の例
- ・残地利用法の例
- ・事業により起こりうる問題
- ・緑を使った工夫例
- ・まちなみづくりの工夫例
- ・まちなみづくり検討活動の例



参加者の意見—この他にもたくさんの意見が出されました—

テーブル1

STEP1 まちなみの変化について

- 今の利便性ははどなるの
 - ・商店の存続はどなる。
 - ・交通機関の路線がどなる。
 - ・自治会の構成が崩れる。
- 地元住民への対応は
 - ・残地はどなるのか。
 - ・住民の住む場所がなくなる。
 - ・建替え中の住み家などはどなる。
- 景観のみだれ
 - ・今まで隠れていた壁がむき出しになる。
 - ・新たに道路に面した建物の統一性がなくなる。
 - ・残地での駐車場が増大する。
- 環境の変化
 - ・人、車の流れがどなる。
 - ・新たに道路面となった家での環境の変化。
- 工事中の問題
 - ・工事中の交通渋滞。
 - ・道路拡幅による騒音の拡大。
 - ・工事期間中に更に人口の流出が進むのではないかと。

STEP2 今後のまちなみについて

- 行政にお願いしたいこともある
 - ・商店の存続ができる様な代替地の提供。
 - ・事業の中で商店や商業地を整備。
 - ・将来のまちなみのビジョンをはっきりとしてほしい。
 - ・移転広告を出す。
 - ・建替え中に安心して生活できる場所（住宅）の提供。
 - ・工期の短縮化。
 - ・交通量の調整。
- 住民にできることもある
 - ・地元での購買の拡大。
 - ・共同で商店等を建替える。
 - ・共同ビルでの再開発。
 - ・移転した人とのコミュニケーションを密にする。
 - ・家の前の掃除は進んでやる。
- 行政と住民が協力してできることもある
 - ・日用品が買える店を作ってほしい。
 - ・話し合いの上で景観に統一性をもたせる。
 - ・駐車場だらけのがらんとした道にはならないでほしい。
 - ・イベントでもして楽しく、にぎやかに。
 - ・独居老人の家などは進んで訪ねてまわる。

テーブル2

STEP1 まちなみの変化について

- 沿線に残らない理由
 - ・土地はあるが広くて（高価で）買いにくいから低未利用。
 - ・借家が多い。住人は出て行く人が多い。
- 人口減 → 店減 → 人減 このままでは加速する。
 - ・人が出て行くから市場が小さくなり、店をやめる。それを見て人が出て行く。
- 意欲な要望
 - ・住人が出て行く。それを止める知恵がほしい。
 - ・地元に住むメリットは何か。地元住民が残るためにはどうすればよいか。
- 将来のシンプルなイメージ
 - ・歩行者を増やす。（通行人・消費者となる）
- ハード・細部アイデア
 - ・沿線駐車場ができると、歩道を横断する自転車が心配。
 - ・電力地上機器を400mm高にしてベンチ代わりに。
- 2列目住民を含めた検討体制が必要では
 - ・1列目は離町。でも2列目の住民はそのまま。2列目以上を含めた検討体制づくりが必要である。
- 転居先を付近にするのが人口（市場）維持。誰が調整する？
 - ・住民が出て行くのは避けられないのか。行政が転居先を付近で用意する。
- まちは更新される
 - ・3代続く店は少ない。住人、町は変わっていく。絶望するのは早い。

STEP2 今後のまちなみについて

検討体制づくり

- （残る人（2列目以降）を含めた）検討体制づくり
 - ・体制づくりへの助成。まちづくりプロデューサー。
 - ・表層の残りたと思う人たち、2層目の人たち、通りを利用する人たち、まちづくりに関心のある人たちによる検討体制づくり。

テーブル3

町内会が大切

- コミュニティの再生
- 人口増の方策

○まちなみの魅力

- ・住民、商売をする人が残り、住み続ける条件、魅力があるのか。
- ・子育てに必要な施設が近くにたくさんある。（プール、体育館、図書館、文化施設など）
- ・学校に近い。
- ・町内会の組織が整っている。
- ・障害者の方の買い物圏。
- ・歩いて買い物に行ける。

○今後の心配

- ・店舗がなくなることで活力がなくなり、不便にもなる。
- ・みしまや、ラバンは存続するのか。
- ・店舗展開の方策はあるのか。
- ・大型店舗が減るのは不便、心配。
- ・住民が出て行くことにより町内会が成り立たなくなるのではないかと。

○対応策

- ・災害時の助け合い（町内会のつながり、コミュニティ）が大切。
- ・学校（高校）の校区制見直し。
- ・周辺の人のための店舗、商売。（100軒）
- ・2世帯対応の店舗があると良いのでは。職住一致。
- ・店舗や住居が残る方法として、寺町のような建替えも良いかもしれない。
- ・定年後のチャレンジショップ。

○低未利用地への対策

- ・賃貸マンションができれば入居する。
- ・マンションで人口が増える。
- ・空いた空地が買えない、売らない。

テーブル4

STEP1 まちなみの変化について

- ・とにかく「にぎわい」のあるまちはできるだろうか。
- ・商店の方々がここで商売を続けていこうと思えるのだろうか。
- ・米子町の残地が少ないものが一緒になるとなるとかなるのでは。
- ・みしまやさんのニーズはしっかりある。なくなると困る。
- ・共同建替えがなるのか。なったとして活性化するのか。
- ・住みたい人が（特に高齢者）が住み続けることができるか。
- ・歴史を感じるまちなみは残るだろうか。
- ・建物の高さは揃えたほうが良いと思う。
- ・高いビルが建ち並ぶのは問題ではないか。
- ・通過するだけでなく、人がぶらつくように。
- ・側溝の石垣を大切にできるだろうか。
- ・古いまちなみの再現。

STEP2 今後のまちなみについて

○行政

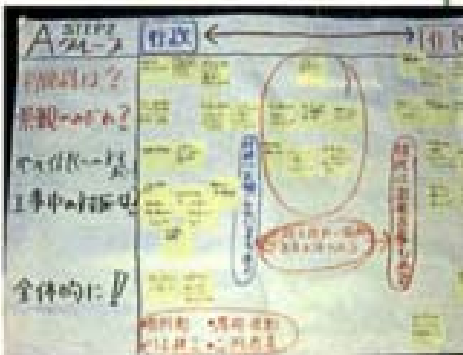
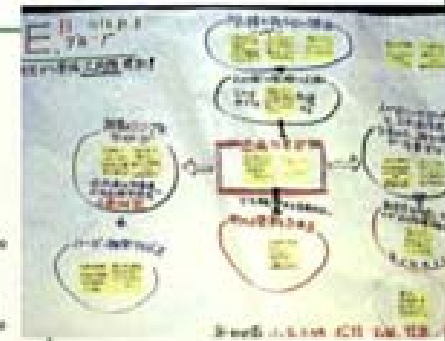
- ・イベントをしても駐車場がないと行きづらい。
- ・道路使用の許可をとりやすく、お金を安くしてほしい。
- ・ふとした歴史のかけらを大切に。
- ・歴史のいわれをとどめる立て札がほしい。
- ・路上施設はもっと小さく。

○住民

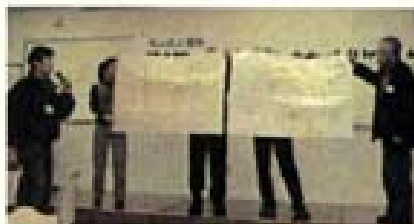
- ・共同建替えは一つの方法。その前にしっかり過去の事例を検証する。
- ・母衣町の小さな土地を一つにすることができるのか。
- ・店をやめる人続ける人が情報交換して、うまくにぎわいを。

○行政と住民の協力

- ・イベント（例えば野菜市など）をしないと人が来ない。
- ・イベントが出来るスペースがほしい。
- ・街路樹にも気を配る。



- 空地の情報、残りたい人、そうでない人
 - ・沿線近くで空地进行を斡旋してほしい。行政だけでは不十分。
- 商売を続けるために、続けてほしいために
 - ・みしまやがなくなると生活する人が不便。
 - ・沿道の商店にはできるだけ残してほしい。
 - ・共同店舗はどうか。自己責任が原則。
- 拡幅すると
 - ・津田街道は車が増えて人通りが減った。
 - ・道路の高さはどうなるのか。水害は忘れたころにやってくる。
 - ・建物の高さはどうするのか。(水害のときに)
- 歴史を生かす石垣の活用
 - ・石垣を生かせるのではないかな。
- 組織づくり、その仕分け
 - ・まちづくりを考える会(町内会単位)がまちづくり勉強会を昨年9月から立ち上げた。
 - ・横のつながりを改める場が必要。(3~4月以降が良いタイミング)



■今後について

「まちづくり」とは、使う側も受ける側もなんとなく納得している言葉だと思います。ただ、まちづくりで誰もが納得できることがひとつあります。それは、「まち」を一番よく知っているのはそこに住み暮らす住民のみなさま方であることです。当然「まちづくり」の計画をつくるのが一番いいのは、まちの主人公である住民のみなさま方だと思います。

今回のワークショップでのご意見も取り入れて、今後もみなさま方と協働でまちづくりを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

■まちづくりとまちづくりワークショップ アンケートより

- ・まずは住む人がうまく、楽しく住めるということが大事だと思います。その住人の楽しい雰囲気、活気が自然と観光客を呼ぶんじゃないかと思えます。
- ・行政にやってほしいことは多く、大掛かりなことで、力もお金もない市民は、とにかく話し合いの場に参加する、意見を言うことなど、簡単なことをやればいい。それが重要だと分かりました。
- ・議論で出てきた重要なポイントである、「新たな体制づくり」ということを早急に検討していかなくてはならないと思えます。
- ・前回より具体的で、楽しく意見交換が出来たと思う。

まちづくりに関するご意見・ご相談の窓口です

松江市都市建設部都市計画課 吉岡・森山・安達・足立

TEL 0852 (55) -5380 FAX0852 (55) -5552